

前回(第6回)の振り返りについて

第6回検討会の主な内容

- 第5回検討会で2つに絞り込んだ飛行方式（RNP-AR、RNP+WP）について、同時進入に係る安全性評価を実施した結果、次の点について確認したことを報告
 - RNP-ARについては、同時進入のための安全性を確認し、技術的に採用可能
 - RNP+WPについては、同時進入のための安全性が確認できず、採用に適さない
- 一方、RNP-ARを導入するにあたっては、以下の課題があることに留意
 - ①RNP-AR方式に対し未対応の機材があるため、ただちに導入することは困難
 - ②2024年1月に発生した羽田事故を踏まえ、ヒューマンエラーのリスクとなり得る運用の大きな変更や更なる複雑化は慎重に行うべき
- また、仮にRNP-AR方式を導入したとしても、新たな経路は市街地上空を通過することから、ルート案の検討については慎重な対応が必要。こうしたことも踏まえれば、更なる騒音負担軽減や海上ルートの実現に資する方策についても、国際動向等を踏まえた調査・研究が必要

第7回検討会に向けた主な取組

- 次の事項について調査・検討を実施する等、固定化回避に向けた努力を継続する。
 - ①RNP-AR方式に対応可能な機材の導入状況のフォローアップ
 - ②2024年1月に羽田空港で発生した衝突事故への対策実施状況の共有
 - ③更なる騒音負担軽減や海上ルートの実現に資する方策について国際動向等を踏まえた調査・研究の実施 等
- ※第7回固定化回避検討会は2025年中の開催を予定